
紅き騎士

布袋しぐれ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紅き騎士

【Nコード】

N0902Z

【作者名】

布袋しぐれ

【あらすじ】

はるか昔、この国は占領されてしまった。全ての配下にしかれたこの国は、やがて灰につつまれ、全ては消え去ってしまった。戦火の消えた後、残ったのは炭だらけの、何もない街。文明は消えうせ、家族も、帰る場所も失くした。

そんな街に、ひとりの騎士が現れた。青い瞳の騎士は言った。生きる気があるならば、私の従者になれ、と。

そうして、私の運命は思いもしない方向に動き始めたんだ。

運命のはじまり

それはそれは、とても昔。中世ヨーロッパ時代のお話です。
異国から侵略され、金銀財宝、女子供も、奪われた街がありました。

国の名を、ランベルト。人々は、ランベルト語という、独特の語学を操り、その容姿は異彩でした。紅の瞳あかを持ち、紙は白銀しらがねの色。土地は、野や山、海もあり資源も豊富な場所で暮らしていたランベルト人は、戦うことを知りませんでした。

そうして、ランベルトは瞬く間に、計算高き、隣国に侵略され、飲み込まれてしまうのです。

そして、その、飲み込んだ国こそ。

厳格なる戒律と、階級の上に聳そびえる王国————その名を、王のもとに、『シュベール王国』。

気がつけば、目の前は火の海だった。何もない。ごうごうと、炎の燃え盛る音以外、何も聞こえない。何も見えない。

「……に……に……にげ……」

「……お父さん？」

「……ライ……に……」

「……いやっ……な、お……」

父は目の前で、炎に包まれた。

私がまだ、11歳のとき。そして、幸せな記憶の終焉こそ、これだ。

私は家族も、帰る場所も失った。

何もない、燃えかすだけが残るランベルトで途方に暮れていた。

幾日も、幾日もそうして過ごして。この世の瀬戸際に立たされたその日に、私はあの人とであった。

青い瞳に、鮮やかなオレンジ色の髪の一――――・・・大きな騎士。白い馬にまたがったその姿はまるで、絵本の中の王子様のようなだった。装備していた鉄の仮面を脱いで、その騎士は私に話しかけてきた。

「君はランベルトの生き残りか」

私は頷いた。もしかすると殺されるかもしれないのに、その瞬間、何も考えることも出来ずに、頷いた。

「そうか。君は死にたいか、生き残りたいか」

「・・・私は・・・生きたい・・・」

「それならば私と共に来い」

「生きて・・・いつか」

私を抱き上げる、鉄のよろいのその姿は、まるで強い騎士。昔話の、戦士みたいだった。

「私はシュベール王国の、ウォルマーニラムドライゴという者だ」

「・・・ライカールベルモーゼ」

「ライカというのか、ライカ。私について来い」

「・・・」

「食い物も、住む所もやる。私の従者として働け」

「・・・はい」

もうこれ以外の生きる道が分からなかったんだと思う。頭が可笑しくなっていたのかも。けれど、この瞬間、不覚にも、私は幸せだった。

まるで天国でも見たかのように。満たされていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0902z/>

紅き騎士

2011年12月3日13時52分発行